

福生市町会長協議会 会報

ちいき

〈発行〉 福生市町会長協議会 会長 笹本 誠一

町会・自治会では、地域の活性化や 人と人とのつながりのために、様々な活動をしています。

5月

輝きフェスティバルで《あいさつ凧づくり》をしました。100個もの手作り凧が空を舞いました。



4月

交通安全運動期間中のあいさつ運動です。



7月

毎年恒例の福生の夏祭りです。



10月

福祉まつりで《ふんぶんゴマづくり》をしました。カラフルなコマを上手に回せました。



7月

大人から子どもまで大勢の人が盆踊りに参加します。



《地域の組織力アップを目指して》

講演会 協力できる地域づくり

平成24年9月15日(土) 市民会館 小ホール

地域に密着した町会・自治会活動

昨今、ライフスタイルの変化によって、地域住民の関係が希薄化し、町会・自治会への関心が薄れつつあります。

講演会では町会・自治会といった地域コミュニティへ関心をもってもらい、協力できる地域づくり・まちづくりについて考えました。

第一部 講演会

「地域に密着した町会・自治会活動」

第一部の講演会では、法政大学法学部の名和田教授を講師に迎え、東日本大震災から見えてきた教訓やこれからの町会・自治会の在り方についてお話いただきました。

◆講師◆

名和田 是彦 氏

(法政大学法学部教授)

東日本大震災後の大混乱の中、地方政府(自治体)の機能が崩壊しているにもかかわらず、落ち着いた行動ができたのは、町会・自治会が機能していたためです。

もともと地域コミュニティの単位であった市町村が明治、平成の大会

併により身近な地域コミュニティに制度的な空白ができてしまいました。

そこで、民間の力だけで政府に類似する町会・自治会が機能しました。地域に秩序をつくる際に重要となるのは「みんなが入っている」ということです。みんなが入っているから会費が課税の替わりになり、会則が条例の替わりになり政府の代わりの機能を果たします。

しかし、近年は加入率の低下が課題となっています。この加入率の低下の課題解決のために町会・自治会ができる新しい挑戦として、地域福祉計画を新しい取り組みのきっかけとし、若い人たちのニーズに応える活動や、高齢者や子育て世代のサロン活動を実施し、今まで地域の中でつながりのなかった人たちに仲間を増やしてもらえるようにすることがあります。また、防災活動の見直しや、若い世代に目を向けた学童への支援やPTAとの連携があります。

特に、色々な人とながら、出会い、仲間になることが大事な事だと人々が気づきはじめている中、地域の顔の見える交流拠点づくりを町会・自治会でも取り組むようになってきています。仲間内だけでなく、不

特定多数の人に開かれた場(公共の場)の提供となります。

そこでは誰でも一定のルールを守りさえすれば、人として尊重されます。これは今後の仲間を増やしていく要諦だと考えられます。その行く先には福祉文化が尊重される地域となりうるのです。

最後に、地域で活動をしている人の中には、NPO活動などパワフルで漸進的で情熱的な人々もいますが、一方、誰もやりたがらないことを粛々とやっている人、まさに政府の役割をやっている人がいらっやいます。その人々こそが地域の基礎を支えている町会・自治会です。その粛々と活動を行う人々が地域に在り、町会・自治会は衰滅しないし、新しいことを進めていく中で、生き返っていきます。

